第３回司書部会　まとめ1

生徒への対応（ロールプレイ）

【シーン１】始業5分前に生徒が慌てて駆け込んできた。

生徒情報：本が読むのは苦手な生徒

生徒： 「朝読に読む本何かねぇ？」

日ごろ生徒と会話をするように、受け答えをすると考えてください。

生徒役は一生懸命生徒役になりきります！

司書： （　　　　　　　　　　　）

 本を薦める

 「　　　　　　　　　　　　　　　　　　」

生徒： 否定的なことを言う

 「えー、・・・・・・　　　」

司書： 対して一言

 「　　　　　　　　　　　　　　　　　　」

■具体的なロールプレイの例

『ワンピース ストロング ワーズ』…「ワンピース（マンガ）読んだことある？元気が出るよ！」

『アレの名前大百科』…クイズ式で１、２ページ紹介してみる。

■生徒の否定的な答えに対して

・ジャンルの違う本をいくつか提示して内容を伝えたのち、「どっちにする？」と選択を促す。

・好きな作家、読んだことのある作家を問い、同じ作家の別の本を薦める。

・肯定的な事実を伝える（「面白くないといった子はいなかったよ。」）

■どのような本をすすめるか

・短いor長い、小説orそれ以外が良いなど、ざっくりとでも好みや傾向を聞いてから選択してもらう

・生徒自身に身近なものだと読みやすい

・文字量が多いと手に取りにくいことも多いので、短いものや行間のあいているものなどをチェック

⇒そのためには、自分の中にストックが必要

　（時間が足りない＆思いついた本は既に借りられていたりする）

⇒カウンター付近にコーナーをつくっておく

■生徒は表紙負けをしやすい

・挿し絵があったり文章量が少ないものでも新書タイプだと敬遠しがち。

・表紙に花のイラストが描いてあるような本は、男子は読みたがらない。

⇒本を開きながら説明する

例；矢野耕平『LINEで子どもがバカになる 「日本語」大崩壊』･･･「短い項目にまとめられているから読みやすいでしょう？」「あなたもLINEでこんなふうに使っているでしょう？」

⇒内容を具体的に取り上げながら説明する

　 例；角田光代『Presents』･･･「あなたの名前も、両親からのプレゼントよ」

⇒同じ本でも単行本、文庫化、出版社で表紙が違う場合がある。生徒受けしそうな表紙をチェックしておく

　 例；太宰治『人間失格』

■時間のない生徒が多い

・映画・ドラマの原作、人気本は常にチェックし、カウンター付近に展示しておく。

・長編・短編のお薦めを常に用意してお（時間がなくても、読書が好きか嫌いかくらいは訊ねる）。

■共通点や共感できるポイントがあると読みやすい

⇒生徒観察が必要

⇒小説より実話の方が良い

■短編

・朝の読書の10分で読み切ることができると、満足感が得られ、読む意欲に繋がる。

 例；三枝理枝子『空の上で本当にあった心温まる物語』･･･「朝読の間に泣けるよ」

＜その他；本が苦手な生徒に＞

・司書から「何を読んどん？」と声をかけ、コミュニケーションを取る。

→仲のいい人からの薦めは、読みたくなる。

・自分が読んで面白かった、という熱を持って薦める。勢いや押しも大切。

・読んでない本の内容を聞かれたら、「読みたかったんだけど、まだ読めてない。読んで、感想を聞かせてくれる？」